

設立趣意書

「環境の世紀」とも呼ばれる21世紀の今、恵み豊かな地球を守り、次の世代に良好な状態で引き継いでいくため、地球温暖化防止と循環型社会の構築に向けた取組が求められています。

こうした背景を受け、輸送用代替燃料としてバイオ燃料を導入する動きが世界各国で活発化しています。

我が国においても、平成18年3月に新たに「バイオマス・ニッポン総合戦略」が閣議決定され、国が主導して、導入スケジュールを示しながら、バイオマス由来輸送用燃料を計画的に利用するために必要な環境の整備を行っていくとしております。

こうした中で、地域におけるNPO法人や企業、地方自治体等の事業者が中心となって、廃食用油等を原料にバイオディーゼル燃料を製造し、利用するといった取り組みが全国的な拡がりを見せており、バイオマス由来輸送用燃料としての確固たる地位を築きつつあります。

しかしながら、利用拡大が進む一方で、品質面で劣悪なものや製造工程で産出されるグリセリンや洗浄廃液の不適切な処理が散見されるなど、バイオディーゼル燃料に対する信頼が失われかねない新たな課題が表面化しつつあります。

こうしたことから、この取組を進める多くの事業者が、一定の品質基準の中で、バイオディーゼル燃料の適切かつ安全な利用を進めていくことが、きわめて重要であると認識しております。

また、バイオディーゼル燃料を軽油混合した場合の課税措置は、バイオディーゼル燃料の普及・促進を阻害するものとなっており、欧米等でバイオ燃料の利用促進政策として実施されている税制優遇をぜひとも実現していく必要があります。

このような状況に鑑み、バイオディーゼル燃料の適切かつ安全な利用に向けた独自の品質規格やガイドラインの作成、税制優遇など制度面での利用促進策の検討及びバイオディーゼル燃料に係る関係者間の意見交換等を通じ、我が国におけるバイオディーゼル燃料の円滑な普及・拡大に努め、持続可能な資源循環型社会の構築及び地球温暖化の防止、地域における地産地消の取組の促進、更には資源作物の栽培等による農林業並びに農山漁村の活性化に資することを目的に、バイオディーゼル燃料事業者、学識経験者並びに関係各位の賛同を得て全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会を設立するものです。

平成19年3月

設立発起人一同